

消化器内科、この一年

消化器内科医長 谷 光 憲

人 事

1999年4月以降は、5月に大学から林 芳和先生が赴任された以外、特に異動はなかった。

診 療 実 績

小生が以前働いていた平成5、6年に比べ、一段と外来患者数が増加し(特に糖尿病外来患者数)、外来は毎日戦場と化している。さらに、救急患者も増加し、病棟はほとんど満床で、入院予約患者が絶えず20～30名待ちという状態。週末の緊急入院患者で満床となり、急遽入院予定患者に入院延期の電話をいれなければならなかったこと、数知れず。以前の赴任時は、肉体的ストレスのみであったが、最近は精神的ストレスも加わり、金曜日の夕には疲れが一気に出て、つつい酒量が増

えてしまうこの1年であった。歴代の医長が長続きしない訳が、最近わかるような気がする。しかし、力強い後輩の医師をはじめ、看護スタッフにも助けられ、何とか日常業務を大きな事故もなくこの一年こなしてこれたことに、スタッフのみんなに心から感謝したい。昨年の検査は、表のごとくである。なかでも健診を積極的にすすめたことによるGF, CF, US検査が予想以上に増加した(グラフ参照)。多分、今のスタッフの態勢では、これがこなせる限界であろう。

また、忙しい診療の合間をぬって、学会活動も精力的に行ってきた。地方会発表が4題、全国学会が2題、論文が4本(うち1本は、英文誌投稿中)であった。今年度は、医療レベルをさらに上げ、啓蒙活動および学会活動も頑張っていきたい。

U S	消化器内視鏡		E R C P	P T C D	E U S	血管造影 (TAE含む)
	C F	G F				
2065	1136	2248	156	34	58	34

